



## 洗車用であった「快洗ROⅡ」を 飲用の純水ROに改造

快洗ROⅡは、水道水からミネラルを除去して洗車後の水シミを完全に防ぐ目的で作られた装置です。だから、もともと飲用の水道水から更にほぼ完全に不純物を取り除くのですから、出てきた純水が飲料水として使えない訳がありません。

しかし、吐出圧力が強すぎたり、吐出ノズルが無骨でごつい構造であったり、また純水を一時的に溜めておくタンクの内側にゴムが貼ってあるため、少しゴムの匂いが感じられるかもしれないので、改造を2、3ヶ所施したものを設置しました。これを「純水RO」と呼ぶことにしています。



RO装置の設置を行った弊社仙台営業所の澤田君と大和君

## 避難所の人たち

### 「ガブガブ飲んでますよ。純水、うまいね。」

川俣町と飯舘村の小学校や中学校、公民館、特別養護老人ホームに設置された純水ROは、当初まだ放射性物質の汚染が基準以上になっていたわけではないので、果たして使っていただけのものかと思っていました。しかし、純水ROの確認のために廻った澤田スタッフによると、「みんなでしょちゅう使っています。おいしい水ですね」とか、「私は毎日ガブガブ飲んでるよ」とか、「純水でカップラーメン作るとうまいんだよ」とか、飯舘村の人が「飯舘の水は日本一ウマイと思ってきたけど、この純水は区別がつかないくらいウマイね」と、嬉しい話をいっぱいしてもらったそうです。

澤田スタッフが「役に立てて良かった」と涙声で報告してきたことを憶えています。

## しかし、飯舘村と川俣町の一部が 計画避難地域に指定されてしまった



川俣町の計画避難地域

飯舘村と川俣町に実際に行ってみると、平和そのものの素晴らしい山村です。M9の地震にも地盤がしっかりしているので大きな被害もなく、原子力発電所の事故のことを忘れれば、何も特別なこともないごくごく平和で素晴らしいところです。本当にここに住んでみたいと思うほど素晴らしい。

しかし、原発事故は現実のことで、4月の下旬、飯舘村と川俣町の一部が計画避難地域に指定されてしまいました。農業と飯舘牛で有名な畜産の盛んな地域です。いったん人がいなくなると元の生活に戻るのは大変なことだ

と思います。平和な町と村の人たちはこの非難の指示をどんなに悔しい思いで聞いたのか、心中を察するに余りありません。

## 「すぐに帰ってくる」皆さんを待ち、 純水ROを待機させることにした。

1ヶ月で全員が非難することは難しく、避難したとしても「一日も早く帰ってくる」という皆さんの気持ちを考え、すでに設置してある「純水RO」を、そのままの場所、あるいは町村の何処かに移動して待機させることにしました。皆さんの1日も早く元の生活に戻られることをお祈りしています。

## 「このままでは、絶対に、終わらない。 今度は絶対日本一に。」

今回のこの事の発端である渡辺商店Q-pit大熊SSの鈴木所長に避難先の会津若松で会い、お話を伺いました。避難の疲れはあるものの「このままでは絶対終わりませんから」とおっしゃる目はしっかりと生きていて、精神は強く健全でした。

人口わずか1万2千人の大熊町で、キーパー選手権全国4位の実績を作り出した底力を、今後どういう形でまた発揮されていくのか分からないが、ただでは済まさないであろうことは間違いありません。

「去年の夏、いっぱいクリスタルキーパーをさせていただいたので、あれさえなければ今年8月は絶対みんなリピートしていただいて、今年こそは全国トップを取るとみんな決めていた」。

本当にそうだったと思う。Q-pit大熊SSの人たちだったら、必ずやり遂げたいに違いありません。



(株)渡辺商店Q-pit大熊SSの鈴木所長